

コロナ禍におけるセーフティネットと生活保護の役割

=「自助・共助・公助」論で乗り切れるか？=



あつし

講師 **吉永 純** さん

花園大学教授
全国公的扶助研究会会長

【吉永純先生の プロフィール】

京都市役所で生活保護のケースワーカーやホームレス支援をはじめ、福祉の仕事中心に24年間従事した後に、2008年から現職。専門は貧困論、生活保護、生活困窮者支援等。著書に『生活保護「改革」と生存権の保障』（明石書店）、編著書に『Q&A 生活保護手帳の読み方・使い方』（同）、『無料低額診療事業のすべて』（クリエイツかもがわ）など。

新型コロナウイルス感染症は収まる兆しがなく、市民生活は過去に例がない困難を強いられています。現在の支援策である給付金は一過性ですし、貸付金は返さないとはいけません。家賃支援（住居確保給付金）は期間限定です。最後のセーフティネットである生活保護の重要性は明らかです。新首相は「自助・共助・公助の国づくり」を宣言しました。しかし、コロナ禍で「自助」が限界に達している今、本学習会では、公助であるセーフティネットと生活保護の重要性を改めて考えたいと思います。

日時

11月14日(土)
午後1時30分
～4時30分

会場

こうち男女共同参画センター
「ソーレ」大会議室(3階)
高知市旭町3丁目-115
※事前申込は不要です

新型コロナ感染予防のため、マスクの着用と検温にご協力ください

○1時00分～ 受付（参加協力費 500円）

○1時35分～ 吉永純先生講演

○2時50分～ パネルディスカッション

パネラー ・津嘉山 周さん（高知市福祉事務所）

・松岡 千佐さん（南国市福祉事務所）

・福元 温子さん（法テラス高知法律事務所）

コメンテーター ・吉永 純さん

コーディネーター ・田中 きよむ

パネルディスカッション終了後、こうちネットホップの総会を行います。

主催：こうちネットホップ（ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会）

代表 田中きよむ（高知県立大学社会福祉学部教授）

問い合わせ先：下元博司（副代表）090-3789-3474

霜田博史（事務局長）高知大学研究室 088-844-8193

後援：高知市 高知市社会福祉協議会

こうちネットホップは、ホームレスの見守り・声かけや相談・支援をしているボランティア団体です。
この事業は、高知県社会福祉協議会『高知県福祉活動支援基金』の助成を受けています。